

第10回松江市伝統文化芸術振興審議会(令和7年10月1日開催) 委員からの意見と松江市の回答・見解等

通し番号	委員名	意見主旨	回答・見解・今後の対応策等	担当	(参考)当日回答
1	石橋 淳一 (佐陀神能保存会 会長)	<ul style="list-style-type: none"> 参加団体と意見交換をしっかりと、いいものにしてもらいたい。 後継者育成について、伝統芸能の担い手育成に対して必要な支援が行われていない。 長期スパンの伝承計画が必要で、そのうえでPRや人材育成を行っていく必要がある。 民俗文化財保存プログラムの活用もお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度は、2年に1回の「松江市伝統芸能祭」を開催予定。準備段階から参加団体の皆さんと意見交換をして、一緒に作り上げていく。 後継者育成について「伝統芸能保護育成協議会」において、加盟団体の皆さんと相談して令和7年度に新設した後継者育成の助成金について、活用しやすくなるよう意見交換をしながら運用する。 各団体のPRや後継者育成・人材育成の主体的な取組を今後も支援する。 保護・継承の取組について、引き続き必要な情報提供を行うとともに、国や民間の助成金の活用などを支援する。 	文化スポーツ部 (文化振興課)	
2	大隅 宏明委員 (NPO法人松江音楽協会 事務局長)	<p>【ご提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽団体について担い手育成がどの団体も課題。 経験をしたうえで、高校から大学の期間が伸びる時期ではないかと思う。 	—		
3	大田 美穂委員 (株式会社アルトクラシー 企画ユニット/ハイソーン・ニヤーハイ子)	<p>【ご提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもに対する取組みが重要だと思う。また、子どもだけではなく親も知ることも効果があると思う。 保護者が後継者不足の解消に繋がる可能性もあるので、大人にとっても学びの場になることで、次のアクションへ繋がるように取り組めると良い。 情報発信のなかにもう一歩深く進めるようなところがあると何か変わってくると思う。 	—		
4	小野 亮委員 (株式会社ディー・エル・イー 代表取締役社長CEO・CCO 役)	<ul style="list-style-type: none"> SNSなど情報発信の課題について、講習会を開催してはどうかと前回発言した。その後発信がされているか。 平日の9時-17時ではSNSは対応できない。 企業がなかなか個人の若者たちのSNSに勝てない大きな理由として、若者たちは24時間、自分のポストに対していろんなコメントをくれる人達に対しても、やっぱりリツイートしたりコメントを返したり、「いいね」をしたりと反応している。 企業は9時-17時で空いてる時間にSNS投稿をするが、それだと当然成長普及しない。 だからそこをSNS活用って1口で言ってみても、なかなか難しい。 であれば土日でも発信できるような「専門部隊」を組織として作るのも一つの方法であるのかと思う。 SNSは土日の方がアクセスが集中するので、そこを議論いただけたらいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> SNS運用において、24時間体制を組める状況であれば情報発信の可能性は大いに拡大するものと考えているが、自治体での運営という点では人員体制上簡単なことではないと認識している。 現状、タイムリーな投稿が特に求められる場合は、週休日、祝日においても管理職が対応し、また場合によっては投稿日時をタイマー設定するなどしているが、リポストやコメント返しといった対応は考えていない。 担当課としては、投稿体制の再考も必要であると認識しているが、現状の本市のSNSにおいては、投稿文や添付画像に固さが否めないという課題感があり、工夫の余地が大いにあると考えており、特に、投稿内容のブラッシュアップが必要であると考える。 本市に在籍する広報企画官からのアドバイスに加え、外部研修受講の機会も活かしながら、運用体制に併せ、テクニカルな部分も精度を上げ、興味を持っていただける情報発信に取り組んでいく。 	政策部 (広報課)	<p>(文化振興課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> SNSの有効活用というところで、情報発信の仕方についての講習会は現在のところ実施していない。 文化関係のイベントについては、SNS、ホームページ等を活用し積極的に情報発信している。 けれども情報には旬があり、発信されるタイミングが反応していただきやすいところであるか、そうでないかによって価値が変わってくると思っている。 土日のイベントも早いタイミングで発信することを心得ているが、その出し方、見せ方、またタイミングについては、職員の意識で変えられるところと、組織的に何か「てこ入れ」ができるかどうかを検討していければと思っている。
5	小林 准士委員 (島根大学法文学部 教授)	<ul style="list-style-type: none"> 旧田野医院は指定文化財になっているが、現在は解体保存されている。そういったものも活用していく余地があると思う。 西田千太郎旧居も文化財としては生かし切れていない。建物もかなり傷んでおり地元の人などが資金を集めるなど保存活動をしている。そのような活動が実を結び、ゆかりの地となるような状況が継続されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 田野家住宅(旧田野医院)は島根県最初の擬洋風建築であり、国内において最古の病院建築遺構と考えられ、平成26年に市指定文化財に指定している。「西田千太郎日記」には、西田千太郎が小泉八雲に同行し、旧田野医院で診療を受けるなどの記録が残っている。 西田千太郎旧宅には小泉八雲が30回以上訪れた記録があり、建物内に残っている史料の調査研究は島根大学法文学部の宮澤文雄准教授を中心に進められている。建物・史料は西田千太郎のご子孫から「一般社団法人まちなかプラン」が借り受け、地域交流や資料の公開などに活用している。一方、建物は老朽化により雨漏りなどが生じており、「一般社団法人まちなかプラン」を軸に保存修繕する取り組みが進められている。 本市としては、小泉八雲と関連の深い「旧田野医院」及び「西田千太郎旧居」について所有者、管理者、文化財の有識者の意見をうかがい、引き続き文化財的価値の検証と周知を図っていく。 	文化スポーツ部 (文化財課)	

第10回松江市伝統文化芸術振興審議会(令和7年10月1日開催) 委員からの意見と松江市の回答・見解等

通し番号	委員名	意見主旨	回答・見解・今後の対応策等	担当	(参考)当日回答
6		<ul style="list-style-type: none"> ・小野委員からSNSによる広報を教えてください。 ・SNSなどの情報発信についてなど、もっとぎっくばらんの会で情報交換したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員間の意見交換は、伝統文化芸術の振興にとって大変意義深いと考えており、また委員同士の連携強化に資するものと考えている。委員の方々による情報・意見交換の場が結成された際には、事務局へも情報共有いただきたい。 	文化スポーツ部 (文化振興課)	
7	園山 土筆委員 (松江市文化協会 副会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの頃の体験がないと大人になっても触れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者育成は、伝統文化芸術の継承にとって非常に重要な課題と認識している。本市では、令和4年度から「松江の文化力体験推進事業」を実施し、こどもと保護者を対象にした伝統文化芸術の体験教室・講座を展開し、本市の文化力への関心を高め、楽しみながら学べる環境づくりを進めている。具体的には、親子での参加できる文化体験イベントや、地域の伝統行事に親しむ機会を増やすことで次世代育成や、伝統文化芸術の継承を目指している。今後も体験機会の充実と情報発信の強化に努め、後継者の育成支援に努める。 	文化スポーツ部 (文化振興課)	
8	高屋 茂男委員 (島根県立八雲立つ風土記の丘 所長)	<ul style="list-style-type: none"> ・市のHPにあるイベントカレンダーにはあまり情報が掲載されていないように思う。 ・市は広報などで様々な施設でいろんなイベントをやっている情報を集めていると思うが、そういった情報をうまく使い連携させて、市のホームページのトップのところに上がってくると良い。 ・システムの自動で反映されると良いが、できなければPDFでも、「10月イベント・11月イベント」のような形で、トップのほうに上がってくるようになるとういかなと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のとおり、市HPのイベントカレンダーに掲載されている情報は、極端に少ない状況である。 ・イベントカレンダーは、イベント情報の掲載ページさえ作成すれば、設定一つで掲載可能であるため、各部署に周知のうえ対応する。 ・イベントカレンダーをHPのトップに持って行くことについては、別途改修が必要なため、当面は、SNSを通じてイベントカレンダーへ誘導するなどの工夫を図りたい。 	政策部 (広報課)	
9	田中 藤一郎委員 (松江市公民館長会 監事 鹿島公民館長)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根付く伝統文化継承事業補助金があまり活用されていないのではないか。「手続きが煩雑で金額も少なく、活用範囲が限定的」との意見もある。 ・公民館にまとめて交付するほうが活用されるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金があまり活用されていないというご指摘については、広報が不十分であったと認識している。今後は、自治会の手引きへの掲載や市報・市ホームページで情報発信するなど、より多くの皆様に本補助金を知っていただけるよう努める。 ・本補助金は個々の伝統文化継承団体を直接的に支援することで、多様な伝統文化継承活動にきめ細やかな支援ができるものと考えている。引き続き、公民館との連携を強化するとともに、補助金の申請支援などを通じて、より多くの団体や継承活動に即した支援となるよう努める。 	文化スポーツ部 (文化振興課)	
10	田中 昌子委員 (一般社団法人島根県建築士会 松江支部副支部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・カラコロ工房とてもよい建物だが、点で存在している。回遊ルートをまじめに考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年7月19日から「あげ、そげ、ばけ。めぐり」キャンペーンと銘打って、松江城や小泉八雲記念館、田部美術館など市内11の文化観光施設の入館料(2割引)や、協賛店舗の飲食や土産物(1～2割引、おまけ等)について割引サービスを実施している。カラコロ工房の店舗にも参画していただき、松江城周辺の観光客にカラコロ工房を含めた周辺店舗をより利用していただけるようキャンペーンの周知に努める。 	文化スポーツ部 (文化振興課)	
11	田中 麻里委員 (松江市民劇場 副会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・「松江の文化を生かしたまちづくり条例」の7つの柱は松江の文化を表す、非常によい柱だと思う。「松江の文化を生かしたまちづくりを進めている」ということを、市民の方にもっとアピールしていただきたい。 ・松江市が文化でブランディングしていくためのよい条例だと思うので、ぜひ周知をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市報やホームページ、SNSなど多様な媒体を活用して積極的に情報発信を行い、市民の皆さまに条例の趣旨や内容をより理解していただき、松江の文化を活かしたまちづくりに一緒に取り組んでいただけるよう取り組む。 	文化スポーツ部 (文化振興課)	

第10回松江市伝統文化芸術振興審議会(令和7年10月1日開催) 委員からの意見と松江市の回答・見解等

通し番号	委員名	意見主旨	回答・見解・今後の対応策等	担当	(参考)当日回答
12		<p>・カラコロ工房を改修され、今どういう評価をしているのか。物産販売についても店舗が変わったりということを知ったが、どういう状況であるのか。 ・特にギャラリーを設けられ、工芸の方々にとどのように利活用されているか。 ・また職人商店街で新しい認証制度を設けられましたが、その内容について知りたい。</p>	<p>・カラコロ工房の物販販売については、6月末にテナントが撤退され、9月20日より、新たなテナントにより販売が開始されている。 ・地下金庫ギャラリーでは、人形作家の個展や、陶芸・木工の展示販売会などが開催されている。 ・今後、職人商店街の認証制度を新設しにより、中心市街地の回遊性を高めてまいりたいと考えている。</p>	産業経済部 (商工企画課)	<p>(市長) ・市民向けなのか観光客向けなのか、コンセプトがわかりにくいところがあった。 ・物販飲食、そしてものづくりの拠点ということでリニューアルオープンしたが、ものづくりの拠点ということで、職人商店街とも完全に密接に関係している。 ・北の職人商店街の一番の拠点として、点ではなく線を作っていく、その役割を果たすのがカラコロ工房であると、あえて「工房」という名前を残したが、それがわかりにくいという評価もある。 ・景観上の制限もあり、外から見たときに飲食施設としての視認ができないことや、案内がわかりにくい。 ・利用者数はコロナ前より増えている ・松江市も当然コストかけて改修したほどの効果が上がっていないと認識しており、少し整理が必要な状況になっている。 ・松江市としてもある程度インフラお金をかけ、皆様が寄り合いたいと思える場所にしていきたい。 ・職人商店街(現在10店舗)とカラコロ工房の回遊性を高め、松江の特徴を知ってもらえるよう認証制度についても取り組む。</p>
13	田中 麻里委員 (松江市民劇場 副会長)	<p>・後継者の育成は大切だと思っている。県ではいろんな後継者を育成するための補助金を出しているので活用していただきたいが、松江市としても後継者を育成する支援メニューを考えたいではないか。</p>	<p>・後継者育成は、伝統文化芸術の継承にとって非常に重要な課題と認識している。本市では、令和4年度から「松江の文化力体験推進事業」を実施し、子どもと保護者を対象にした伝統文化芸術の体験教室・講座を展開し、本市の文化力への関心を高め、楽しみながら学べる環境づくりを進めている。 具体的には、親子での参加できる文化体験イベントや、地域の伝統行事に親しむ機会を増やすことで次世代育成や、伝統文化芸術の継承を目指している。 今後も体験機会の充実と情報発信の強化に努め、後継者の育成支援に努める。</p>	文化スポーツ部 (文化振興課)	
14		<p>・審議会で市に言いつばなしではなく、委員同士議論がしたい</p>	<p>・委員間の意見交換は、伝統文化芸術の振興にとって大変意義深いと考えており、また委員同士の連携強化に資するものと考えている。委員の方々による情報・意見交換の場が結成された際には、事務局へも情報共有いただきたい。</p>	文化スポーツ部 (文化振興課)	<p>(垣内会長) ・この会議自体は進捗管理であるため、事務局的には事業のKPIを含め、どう検証するか判断するか、ということが主たる目的である。そのため参加者同士の意見交換の場ということまではいかない。 ・ここからスピンオフする形でぜひ委員の方々による情報・意見交換の場を作っていたら、意見交換の場を設けられるというのもあるのではないかと思う。 ・それを事務局へフィードバックすることで、回答をもらうことも可能であると思うので、ぜひリーダーシップをとっていただくのも良いと思う。</p>
15		<p>・若い方が松江市の文化に対してどんな思いを持っているのか、知らないという人が多いかもしれないが、逆にそれを知る機会にもなることがあるので、若い方の意見を聞くという機会を設けてもらいたい。</p>	<p>・若い世代の視点やアイデアは、伝統文化芸術の未来にとって不可欠であると認識している。 ・より多くの若い世代の皆さんから気軽に意見を寄せていただけるよう、オンラインでの意見募集やSNSなどを活用した仕組みを検討する。 ・引き続き、本市の伝統文化芸術が持続可能なものとして発展するよう、幅広い世代の皆さんが松江の文化に関われるような機会を創出していく。</p>	文化スポーツ部 (文化振興課)	<p>(垣内会長) ・子どもの意見、中高生、学生の意見などは、この条例を作るとき、また基本計画を作るときなど、その都度いろいろな形で取り入れている。</p>

第10回松江市伝統文化芸術振興審議会(令和7年10月1日開催) 委員からの意見と松江市の回答・見解等

通し番号	委員名	意見主旨	回答・見解・今後の対応策等	担当	(参考)当日回答
16		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行が進む中で、部活のときは「家庭の日」があったが、クラブチームになるとクラブ内の活動に全力を注ぐので地域活動がおろそかになるかもしれないことを懸念している。 ・クラブチームは予算が必要になるので、そういったときに何かイベントに出て物販で資金を集めるなど、そのような関わりももしかしたらできるのではと思っている。 ・こどもを個人的に呼んでこようとするとなかなか難しいというのもあると思うので、クラブ単位ごとに招くなどの工夫が欲しいかなと思う。 	<p>・松江市では中学校部活動ガイドラインを策定し、適切な活動時間と休養日の設定を行っているが、地域クラブ活動においても中学校部活動と同様な適切な活動時間や休養日を設定して行く必要があると考えている。中学校部活動の地域移行(地域展開)については、令和8年度から新たに「改革実行期間」がスタートすることを踏まえ、国として新たに「部活動改革及び地域クラブ活動の推進に関する総合的なガイドライン」を策定されることになっている。松江市としても国の新たなガイドラインや県の方針を基に、ガイドラインの改訂を行い、地域クラブにおいても適切な活動時間や休養日を設定していく。</p>	教育委員会 (学校教育課)	
17	原田 順子委員 (松江市教育委員)	小泉八雲とセツの普及用冊子の配布計画について	—	文化スポーツ部 (文化振興課)	<p>(文化振興課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般向けの冊子は中学校、高校、公民館、中央図書館、東出雲図書館、島根図書館に配備している。 ・小学生向けの冊子は、市内全学校の4年生から6年生の各教室、特別支援教室の各教室に必ず配備し、また学校の図書室にも配備をすることになっている。 ・公民館、市内の市立図書館ともに配備することで、まず生活している地域で訪ねてもらえるような施設で目に触れて取っていただき、ご覧いただけるようにしている。 ・また出前授業と出前講座において、各回およそ約20名から30名ほどの参加者の皆様にお渡しする。 ・配布数には限りがあるため、ホームページにダウンロードできるよう掲載もし、できる限り幅広く皆様にご覧いただけるように取り組んでいる。 <p>(市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この冊子を編集したのは、羽田昭彦さんという松江市出身で、文芸春秋や週刊文春の副編集長をされていたプロの方であるが、この自身が出前講座で小学校・中学校に出掛けて講演をしている。
18		【ご提案】 親の立場からすると体験イベントをいつも探している。親をターゲットと捉え、アプローチするのがよいと思う。伝統文化でも演劇でも体験企画は刺さると思う。	—	文化スポーツ部 (文化振興課)	
19	松原 慶子委員 (出雲国ジオガイドの会 副会長兼事務局長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ジオガイドをする中で、市の中心部でのイベントが多いという声を聞いている。 ・「ばげばげ」をきっかけに、お城やその周辺に来た人を加賀の潜戸から日本海側、島根半島の方へ人を呼び込むルートを模索していただきたい。 	<p>・「しまね観光ナビ」では小泉八雲とセツが旅した思い出の場所として「加賀の潜戸」や「美保関」について紹介されている。これらの史実や歴史的背景とドラマの世界観が重なる地域の魅力を、WebサイトやSNSなどを通じて広く周知することで、松江城周辺を訪れた方々の関心喚起を図っていく。</p>	文化スポーツ部 (文化振興課 ジオパーク推進室)	
20		<ul style="list-style-type: none"> ・美保関の水族館のイベントでは、主催者が海遊館や城崎などヘチラシを送ったことで、そこで情報を得た人たちが大阪から来ていた。自分の趣味嗜好に合致すれば、どれだけお金がかかっても出そうとするのが今の人たちの流れであり、現在のツアーのあり方であるように思う。 	<p>・本市においても令和7年6月に熊本市と、令和8年1月に焼津市と小泉八雲を縁とする文化や観光の連携協力について協定を締結し、相互に情報共有することで、遠方の方にも本市の魅力をお届けられるよう連携を深めている。今後も類似性や関連性のある場所や団体との連携も含め、多様なニーズに応えられるよう取り組む。</p>	文化スポーツ部 (文化振興課)	

第10回松江市伝統文化芸術振興審議会(令和7年10月1日開催) 委員からの意見と松江市の回答・見解等

通し番号	委員名	意見主旨	回答・見解・今後の対応策等	担当	(参考)当日回答
21		<p>・職人商店街について、特に私は明々庵で観光客の方といろいろお話をしますが、職人商店街では確にお菓子を作ってもらって、それは見てわかる。ただそれを技を見るだけでなく、食べることができるオープンテラスもあるといいという声を聴く。 そうすれば市民の方はもちろん、観光客方も、作りたてが食べられる。そういったものがあると、より一層、まちあるきも楽しいし、市民も職人も、そして観光の方も、松江の文化を知っていただく、いい機会になるんじゃないかなというふうに思っている。</p>	<p>・職人商店街構想に賛同いただいた事業者(店舗)においては、店内で食べるスペースはあるが、オープンテラスを設置されているところはないため、いただいたご意見を事業者の皆様にお伝えする。 ・また、カラコロ工房では和菓子作り体験で作ったお菓子を、工房内のオープンテラスで食べることができるため、体験内容も含めてカラコロ工房の魅力を発信してまいります。</p>	産業経済部 (商工企画課)	
22	森山 俊男委員 (島根県茶道連盟 事務局長)	<p>・名前に「まつえ」が入っているが、なんとなく「抹茶」と聞こえるので、茶道会派の皆さんはこの「おまっちえ」に「期待している」。 ・おまっちえを今後どう生かしていくのか、活用方法は。</p>	<p>・「おまっちえ」の愛称選定の過程でも、「おまっちえ」と「まっちや」の響きが似ていることが、茶の湯のまち松江のPRに効果的であるとの意見があったところ。 ・イラストデザイン(全71種類)は、個人使用や市内事業者等を対象には無償で、市外事業者等には有償で提供しており、市内だと、イベントでの販促品や工事看板、各種グッズなどに使用いただいている。 ・本市でも、ふるさと納税の返礼品におまっちえクッションをリリースするなど、今後もグッズ展開を考えているが、個人レベル、事業者、団体レベルで、積極的におまっちえのイラストデザインを使っていただくことに大きく期待をしている。 ・イラストデザインの使用実績などを周知し、使用の促進に努めたい。 ・また、10/26の新松江市合併20周年記念式典で初お披露目となった「大きいおまっちえ」も、以降、市の主催イベントを中心に各地へ出かけて、市民の方とのふれあいの機会を持っている。 ・11月にはおまっちえ公式Xをスタートさせ、年明け以降は、県外で開催されるイベントでも松江市のPRに出かける予定であり、市内外問わず広く認知いただけるよう取り組んでいきたい。 ・特に、「大きいおまっちえ」は、松江市のPRを目的に、現状、市の主催・協力イベントへの出演を原則として活用しているが、リアルイベント出演のみならず、Xの活用も絡めて、松江の伝統芸術文化も、おまっちえの大きな使命としてPRしていきたい。</p>	政策部 (広報課)	<p>(市長) ・10/26に松江市合併20周年記念のイベントをプラバホールで行うが、そこで初めて「おまっちえ」の着ぐるみを出そうと準備をしている。 ・万博や東京県人会でのおまっちえをPRしている。 ・目指せくまモンでやっているの、皆様にもぜひご支援いただきたい。</p>
23		<p>【情報提供】 ・インバウンドでお茶の価格が高騰している。この盆明けから2.5倍になった。 ・東京の抹茶カフェがインバウンドや若者に人気があるが、タピオカのように一過性にならないとよい。 ・明々庵へもばけばけの効果か、1人での来訪者も多い</p>	—		
24		<p>・松江歴史館から北側にインバウンドを含め観光客がすごく多い。 ・松江市民は歩道があることを知っているが、一般の方はどうしても南に行かれるときに縁石もない溝蓋の上を歩かれる。後ろから急に車が来て、非常に怖い思いをしたというような声も、聞かれた。 ・毎日は難しいと思うが、せめて土日祝の10時～16時ぐらいの間は、南から北向きの一方通行にできないか。 ・また南に行く方は、商工中金のあたりを通っていただくようなことをお考えいただけないだろうか。 ・これから「ばけばけ」人気で、界隈を散策される方が非常に多いと思うので、ご回答をいただきたいと思う。</p>	<p>・塩見縄手への観光客増加に対して、10月から警備員2名を新たに配置し歩行者の安全対策強化を図っている。引き続き、塩見縄手周辺の混雑状況については注視し、いただいたご意見も参考に、島根県とも協議のうえ安全対策を検討してまいります。</p>	観光部 (観光振興課)	

第10回松江市伝統文化芸術振興審議会(令和7年10月1日開催) 委員からの意見と松江市の回答・見解等

通し番号	委員名	意見主旨	回答・見解・今後の対応策等	担当	(参考)当日回答
25		<p>【情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月に入ってから1日70件以上の依頼がある。 ・この特需はいつまでも続かない。それ以降はしっかり発信していく必要がある。 ・アイルランドやイギリスからの取材もあり世界的に注目を集めている。 ・入館者が多く、多目的室も展示スペースにしないと、停滞してしまう状況で、学校からのレクチャーの依頼にこたえられていない。 ・後継者育成について、自分が手が回らなくなった結果、学芸員や宮澤先生、三成先生に振ったら広がりが出た。 	—		
26	小泉 凡副会長 (小泉八雲記念館 館長)	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に観光客も増えているので、一方通行ぜひやっていただきたいというのは私たちから切なるお願いである。 ・おそらく県との協議も必要となると思うが、今島根県も大変積極的で、松江市ができないことを県がやりますよというスタンスなので、ぜひ、県と協議していただいて、このあたりを良く進めていただければと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・塩見縄手への観光客増加に対して、10月から警備員2名を新たに配置し歩行者の安全対策強化を図っている。引き続き、塩見縄手周辺の混雑状況については注視し、いただいたご意見も参考に、島根県とも協議のうえ安全対策を検討してまいる。 	観光部 (観光振興課)	
27		<ul style="list-style-type: none"> ・資金確保については、記念館・旧居は、年間収入が増えると思う。 ・それをできるだけ、小泉八雲関係の施設や文化イベントに還元していただきたいと思う。 ・昨年度から上限30万円で記念イベント等へ支援してもらっているが、場合によってはもう少し助成金の増額ということもあっていいのではないかなと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は小泉八雲怪談出版120周年記念イベント等開催支援補助金、令和7年度は小泉八雲・セツが出会ったまち松江がバケるイベント等開催支援補助金と、小泉八雲・セツ夫妻の顕彰に寄与するイベントの開催を支援してきたところである。「ばけばけ」放送期間にとどまらず、機運が継続することが重要であると考えており、放送終了後の令和8年度においても、補助の実施及び上限額について検討してまいる。 	観光部 (観光振興課 小泉八雲・セツのドラマ応援室)	
28		<ul style="list-style-type: none"> ・景観は松江の宝。規制も必要。世界遺産、重伝建を目指すにあたって、自治体の意欲を示すことにつながる。 	—	文化スポーツ部 (文化振興課)	(市長) ・景観の基準の見直し順次行って強化しているところであるが、ご意見のとおりバランスの問題であり、開発する余地もきちんと残していかないといけない。
29	垣内 恵美子会長 (政策研究大学院大学 名誉教授)	<ul style="list-style-type: none"> ・人口20万人くらいの地方自治体を持っている施設を先日調査した。 ・高齢の方はどちらかといえば紙媒体が多いが、実はXも使っている。中高年の方はインスタを使っていて、若い人は意外とポスター・チラシ、それからホームページ、市報(市が出している情報)から情報を取って、刺さればホームページ、ホームページからさらにいろいろなところにあたっていくというルートが分かった。 ・高齢の方は紙媒体で最終的な確認するということがあるようだ。 ・市報というのは最初のファーストコンタクトでどの世代にも非常に重要であり、マスコミはどの世代でもほとんどなかったのは驚きだった。 ・地域によって違うのかもしれないですけど、利用する媒体について1度検証された方がいいのではないかなと思う。 ・市がすべてのSNS媒体に発信する、というよりしっかりホームページに掲載されれば、自分たちが好きな媒体で、自分たちのコミュニティーで共有する傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS一つを捉えても、Instagram、X、Facebookでは、ユーザー層に違いがある。SNS、紙、ホームページといった各媒体の強みを正しく認識したうえで、利用される媒体の検証について検討していく。 ・また、発信する情報、また発信内容の精度を高めていくことが必要不可欠でもあるため、ホームページや市報の掲載内容などは、引き続きブラッシュアップを図っていきたい。 	【政策部 (広報課)	(市長) ・SNSだけでは駄目だと思っているので、上手にアナログとデジタルを絡めて訴求をしていくということ、広報課と検討している。 ・その中で、例えば市のイベント情報などについては「松江ナビ」を新しく立ち上げた。そこには市の職員だけではなく、民間の方も入っていただいて、スクリーニングをする中で皆さんに情報共有できるシステムを整えている。 ・今年1月に、ホームページの全面改訂をしたり、子育てのための特設サイトを作った。また「ばけばけ」がスタートし、「443(しじみ)」という特設サイトもスタートした。 ・小泉八雲は、1年3ヶ月を松江で過ごしており、その1年3ヶ月を数字でカウントしますと、443日になる。それは「しじみ」になる、ということ職員が発見し、そういう訳で「443」のサイト立ち上げた。 ・そのようなことも含め、ちょっと楽しい、面白い話題についても訴求できるよう、これから心していきたいと思っている。